

平成30年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目 次 (Contents)

食農教育の推進に向けて・・・P 2

作文の部

最優秀賞・・・P 3

優秀賞・・・P 4～8

図画の部・・・P 9



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

横手市農業委員会

当会では、多様な農業情勢に対応するため、平成十八年に独自に六つの委員会を設置しました。その中で、「食農教育の推進」のために食農教育推進委員会を設置し、市と教育委員会が連携し、横手食育見聞録作文・図画コンクール」を実施したところです。

今回で十三回目となるこのコンクールは、小学生が自ら「食」について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現することが、心身の発育上、大切であるとともに、ひいては今後の農業振興に役立てるためとしております。

また、総合学習等に基づき、何らかの農業に関する学習を実践している小学校五年生を対象に「自らの農業体験」や「おだん、農業について感じていること」を作文、図画にしてください、優秀

作品については表彰するとともに、広報誌「横手市農業委員会だより」への掲載や平成三〇年十月三十〇日から秋田市で開催された「秋田県種苗交換会」で展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で二百七十四点、図画の部で百七十九点あり、十一名の審査員による審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点が決定したところです。

今回の作品も選考段階で甲乙つけがたい内容であったとともに、作品を通じて、小学生の視点から見た農業に対する思いを、ぜひともご覧いただければと思います。

この作品を通じて今一度食について考え、家庭における規則正しい食生活が大切であることを考えていただく機会として、この作文集が何かのお役にたたてれば幸いです。

横手食育見聞録作文コンクール

最優秀賞

農業を手伝ってみて

醍醐小学校

佐藤 夕七
さとう ゆうな

山内の祖父母の家では、ぶどうやいものこを作っています。小さい頃は収穫したものを食べるだけでした。小学生になってからは、少しずつ収穫を手伝い、今では収穫までの作業も手伝うようになりました。

私はぶどうの中で、シャインマスカットがとても好きです。皮ごと食べることができるし、とても甘いからです。しかし、このぶどうを作るには、いろいろと難しい作業をしなければなりません。普通のぶどうより手間がかかります。例えば、粒を大きくするために、摘粒作業をして、一ふさに三十五から四十粒にします。私は、祖父母と一緒に摘粒作業をがんばりました。

いものこ作りでは、普通の野菜とちがって、植えるときに気を付けなければならないことがあると教えられました。いものこには上下があり、植え方を間ちがうといものこが下の方に出来てしまいます。弟と手伝いをしましたが、見分ける

のが難しかったです。いものこは山内産と横手産でねばりにちがいがり、そのちがいは、土のちがいだそうです。祖父母の家で作っているいものこは、学校で作っているものより大きかったです。来年は、学校で作るいものこを祖父母のいものこに近づけたいです。

手伝ってみて、農業はとても大変だと分かりました。でも、自分たちで手伝ったぶどうやいものこはとてもおいしかったです。これからも手伝いを続けたいです。

小学校でも、りんごやメロンの農業体験をしました。いつもおいしく食べている食事の

ありがたさ、作り手の大変さや気持ちを知ることができました。学校給食でも、生産者の人たちと一緒に食べる機会があります。これからも好き嫌いをせずに、秋田産のおいしいものや横手産のおいしいものを、作り手の方々に感謝しながら食べていきたいと思っています。



優秀賞

横手の宝 横手の食べ物

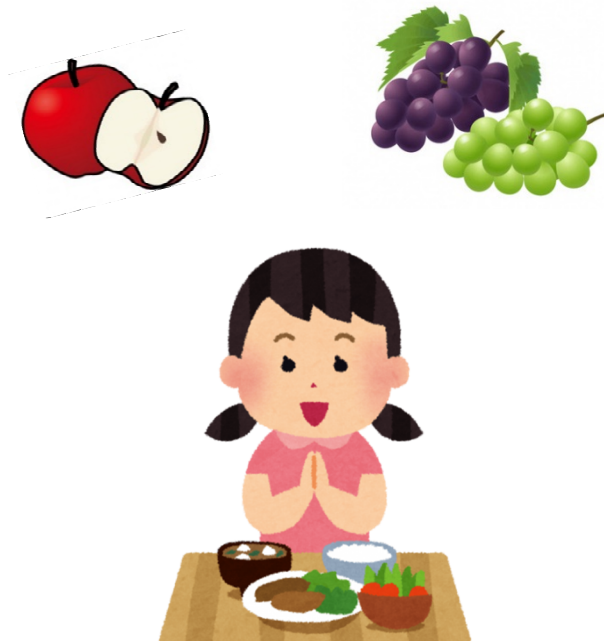
横手南小学校 阿部 咲月 あべ さつき

私は、野菜や果物などをいつもおいしく食べています。とくに、秋田こまちはいつも家で食べていて大好きです。きつと農家さんたちの強い願いや思い、工夫でこんなおいしい食べ物があるのだと思っています。

五年生の社会の勉強で、食料生産を支える人々という学習をしました。その土地にあった作物を栽培したり、新鮮なままトラックで運ぶなど、工夫していることがいっぱいあるというのも、びっくりしましたが、一番心に残ったのは、みんなに安心 安全なおいしい物を食べてほしいという農家さんのやさしい願いでした。私は横手の農家さんだけでなく、世界中の農家さんが同じ思いで作っているのだと思いました。

そして、いつもあたりまえのように食べている食べ物の一口一口に農家さんから、わたしたちへのやさしさが込められているのだと、その初めて気付くことができました。だから、「いただきます」や「ごちそうさま」を言う時は、農家の人や、料理をしてくれた人など、たくさんの人への感謝の気持ちをもつことが大切だと思います。

私は、そんな農家さんが作った食べ物は、私たちの横手の宝だと思います。おいしい食べ物でみんなが笑顔になったり、栄養たっぷりな食べ物で元気になったりと、私たちの生活を明るくしてくれるからです。私たちは、そんな元気の源を守っていく必要があります。一人一人がそうした考えをもっていけば、横手は今より明るい町になると思います。私は、これから農家さんへの感謝の気持ちを忘れずに、横手の宝を守っていききたいと思っています。



優秀賞

食べることが出来る幸せ

雄物川小学校 黒澤 壮くろさわ そう

ぼくは、おやつがわりにおにぎりを食べるくらい、ご飯が大好きです。ぼくを知っている地域の人たちは、ぼくを見るなり「っぺ食べて大きくなったな。」たぐましくなったな。」と言ってくれます。深く考えもしなかったけれど、生まれてから今まで毎日のくらしを支えてくれていたのは、農家さんが育てた食べ物です。この食べ物があればおながすいて、何をするにもやる気がなくなり、百パーセントの力を出すことは出来ません。

ぼくが口にするお米や野菜、果物は、農家さんが日々あせを流しながら作っていること、手間のかかる作業に知恵をはたらかせ、努力や工夫をしながら作っていること、おいしい。」の笑顔をとどけたいという想いでがんばっていることを、総合的な学習の時間の米づくりやスイカ作りの体験をして知りました。また、四年生の時に食肉センターで牛の命を解く仕事があることを初めて学びました。牛やぶた、鳥や魚などの命のおかげでぼくが生きていることを改めて考えました。そして、食べ物がぼくにとどくまでの長い道のりと、

人々の関わりや食べ物の大切さを感じさせられました。

生きるため、成長するためには、一口一口よくかみ、自然のめぐみを味わいながら、毎日栄養のある食事を三食きちんと食べることが大切です。でも、世の中には、食べたくても食べる物が少ない国もあります。だから、農家さんが育ててくれた物を口にすることが出来るのは、とてもありがたく、幸せなことです。命を分けてくれた動物や植物に感謝の気持ちをこめて「いただきます」の言葉をわすれずに伝えたいです。

ぼくは、今年の夏、祖父母に教えてもらいながら、家の畑で野菜作りにチャレンジしようと思います。そして、しゅうかくを楽しみ、家族みんなにぼくの育てた野菜をおひろめしたいです。



優秀賞

ぼくが 「いただきます」と言う理由

横手南小学校 佐藤 由康
さとう ゆうこう

「食べたくないなあ。」夕飯にぼくのきらいな食べ物が出てきました。ゴーヤ、ぶた肉、ピーマン、キノコ、魚……。母はどうしてぼくのきらいな食べ物ばかり食べさせようとするのだろう。」そう思いました。

ぼくにはきらいな食べ物もがたくさんあります。学校で給食を食べるときや家でご飯を食べるとき、きらいな食べ物を見つければ気分が落ち込むこともあります。家族にはよく『いただきます』と言いなさい。」と言われるけれど、どうしてそんなに 「いただきます。」が大切なのか、好ききらいの多いぼくには分かりませんでした。しかし去年の夏休み、母と行った牧場でぼくは 「いただきます。」の大切さをようやく感じる事ができました。見わたす限り広がる大地の上で、たくさんさんの生き物が暮らしています。青い草を口いっぱいにほおばり、命を育んでいます。僕が残した夕飯のぶた肉も元はこうやって生きていた命です。もちろん、ぶただけではありません。ぼくがきらいだと言った魚もキノコも、ぼくに命を分けてくれた生き物です。そのことによりようやく気づい

たぼくは、その光景を見て、胸がいっぱいになりました。母が何度もぼくにきらいな食べ物を食べさせようとした理由も 「いただきます。」と言わなければならない理由も、今のぼくには分かります。

「いただきます。」は、生きていたはずの命をもらい、命を引き継がせてもらうことへの感謝を忘れないための合言葉なのです。

ぼくは夏の牧場で、食べ物を食べながら生きていく上で大切なものを見つけられたような気がしました。



優秀賞

これからの農業、つないでいく私たち

雄物川小学校 梅井 花音
うめい かのん

私の家では、祖父と祖母がスイカを作っています。祖父と祖母が作ったスイカはとてもおいしくて、私たち家族の自慢だし、食べる人を笑顔にしています。だから横手が誇るたくさんのお果物、食べ物にはたくさんのお人を笑顔にする魔法の食べ物だと思います。

しかし、高齢化が進むにつれて農業に関わる若い人が少なくなり、年々食べることでできる横手のおいしい物が減ってきています。

私は、四年生でスイカづくり、五年生で米づくりをしました。とてもつかれたけれど、農業はすばらしさや達成感があるのがすごく伝わる産業だと気が付きました。そのため、少しでも祖父と祖母、その他の農家の方々のがんばるわけを知れたと思います。私たちは毎日のように、祖父や祖母、農家のみなさんが作ったおいしいものを食べています。だから、私たち家族やたくさんのお人たちが生きていけるのです。つまり、農業は人の命、つないでいく命のバトンなのです。いつも祖父、祖母は農作業の休けい中、ものすごくつかれていそうでした。でも、つかれていても手をぬかず、一つ一

つていねいに作業をしていました。そんな祖父や祖母のようにたくさんのお人の愛情をこめて作っている人がいるから、その方々のためにも感謝の気持ちを忘れずに、これからも食べていきたいです。

大きくなって大人になっても、たとえ小さな生き物でも食べ物でも、感謝をこめて生活していきたいです。そして、これからの農家を作っていくのは私たちです。そのためには、積極的に体験をしたり、食べておいしさを知ったりすることが重要です。祖父、祖母の気持ちを引きつぎ、農業が生んだ命のバトンをつないでいきたいです。



優秀賞

地産地消を少しずつ

横手南小学校 渡辺 珠央
わたなべ たまお

横手市には、おいしい食べ物がたくさんあります。また、おいしく調理された料理がたくさんあります。わたしは、社会の学習で、「地産地消」を学びました。

まずは、横手市の食べ物を選んで買うことから始めました。お米や野菜、お肉などいろいろな横手市の食べ物があるということ、改めて感じました。また、家で料理を食べる時にも、自分の地いきの食べ物なので、安心して食べることができました。そして、とってもおいしいので、今でも、地産地消が続いています。そして、地産地消は、食べ物がとても新せんなので、おいしく食べることができるのか、と思いました。

また、お店に売っている食べ物を見てみると、横手市の食べ物を買っている人が多いことに気付きました。このことから、地産地消の取り組みをしている人は、多いということが分かり、うれしくなりました。そして、私は、ちりもつもられば山となる」ということわざを思い出し、あてはめてみました。地産地消を私は、横手の食べ物を選んで買うことにし

ました。そのことをしている人が多いということは、地産地消の取り組みが進んできていることだと思いました。

横手市の食べ物を買うことによって、低くなってきたらっている食料自給率を少しずつ上げていけるのではないかと思います。そのことは、横手市だけではなく、日本の食料自給率についても深くかわってくるのだと考えています。また、地産地消の方法として、店で買うことだけではなく、家で作ったものの方が、農家の人の気持ちを味わうことができます。それに、新せんなので、とてもおいしいです。地産地消は、ただ食料自給率を上げるだけでなく、おいしいので、地産地消を少しずつ進めていき、多くの人が、健康で豊かな生活を送れるようになると思います。



第13回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品

【最優秀賞】雄物川小学校5年 ^{くろさわ} 黒澤 ^{そう} 壮さん
「ご飯が1番」



【優秀賞】醍醐小学校5年 ^{いすみ} 泉 ^{いつき} 樹希さん
「かぶをしゅうかく」



【優秀賞】醍醐小学校5年 ^{たかはし} 高橋 ^{かいせい} 快成さん
「メロンのしゅうかく」

【優秀賞】醍醐小学校5年 ^{たかはし} 高橋 ^な 奈央さん
「きくの花つみ」



【優秀賞】十文字第一小学校5年 ^{たかはし} 高橋 ^{さくら} 咲麗さん
「農業は笑顔育てる」

【優秀賞】十文字第一小学校5年 ^{わたなべ} 渡邊 ^{だいき} 大樹さん
「未来の農業と新品種」

